

会 議 録				
平成29年度第2回 認知症施策事業推進委 員会	日 時	平成30年2月22日(木) 午後7時～	場 所	小金井市役所 第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	竹田委員(一般社団法人小金井市医師会・竹田内科クリニック) 橋詰委員(一般社団法人東京都小金井歯科医師会・歯科診療室橋詰) 田中委員(社団法人小金井市薬剤師会・グリーンベル薬局) 菊池委員(社会福祉法人聖ヨハネ会・桜町病院認知症疾患医療センター) 川村委員(小金井市立本町高齢者在宅サービスセンター) 林委員(わそら街なかナースステーション) 三井委員(株式会社武蔵野ぬくい福祉サービス・介護相談室ぬくいケアプラン) 閑野委員(特別非営利活動法人ケアサポート湧)		
	事務局	中川氏小金井きた地域包括支援センター 杉森氏小金井ひがし地域包括支援センター 高橋氏小金井にし地域包括支援センター 黒木氏小金井みなみ地域包括支援センター 鈴木高齢福祉担当課長 福多包括支援係主任 竹宮包括支援係		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶				
2 議題				
(1) 認知症地域支援推進員活動実績報告				
(2) 第7期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画(仮)より				
(3) 「小金井市認知症安心ガイドブック」実施評価表結果について				
3 意見交換				
1 鈴木高齢福祉担当課長 挨拶				
2 議題				

(1) 認知症地域支援推進員活動実績報告

(高橋氏小金井にし地域包括支援センター)

小金井市における認知症地域支援推進員の取り組みについて説明

ア) 認知症地域支援推進員について説明

当市の認知症地域支援推進員(29年度現在)：黒木氏(みなみ包括看護師)、中川氏(きた包括社会福祉士)、杉森氏(ひがし包括社会福祉士) 荒氏(ひがし包括保健師)、高橋氏(にし包括看護師)

イ) 平成27年～29年度の取り組みについて

- ・認知症の早期発見・早期診断の支援：認知症初期集中支援事業を実施。
- ・認知症生活機能障害に合わせたサービス体制の整備：認知症ケアパス作成検討委員会の開催(平成27年～28年)と認知症ケアパスの作成及び普及啓発。
- ・認知症の相談・支援体制の充実：認知症サポーター養成講座及びフォローアップ講座の開催、認知症講演会の開催。また、「小金井もの忘れ相談シート」の活用と「小金井市認知症連携会議」に参加。
- ・在宅介護者への支援の充実：家族介護継続支援事業や、やすらぎ支援事業の実施。

ウ) 平成30年度の課題

- ・早期発見・早期対応の対応づくり：相談するきっかけとして「認知症相談会」の開催を予定。
- ・ネットワークづくりの充実：認知症サポーター養成講座やフォローアップ講座その他講演会などにおいて、認知症関係機関、協力の希望の意向のある市民(アンケートにて把握)への協力要請と講座の内容の充実を図る。

(以下質問)

- ・キッズ認知症サポーター養成講座を中学校で実施する経緯と、今後、その他の学校に広げていく計画について質問があり、中学校からの依頼を受けたり、民生委員さんの働きかけをきっかけに開催した小中学校がそれぞれあったと回答。
- ・30年度の課題の市民の具体的な協力の内容について質問があり、認知症サポーター養成講座、フォローアップ講座への協力、徘徊模擬訓練の徘徊の高齢者役等、実際に認知症本人の気持ちを実感できる形での協力体制を考えていると回答。
- ・「認知症連携会議」について、竹田委員より、三鷹市と武蔵野市で最初に実施していたところを見学し、検討を行い、そこで使用していたパスを導入した経緯とその後、症例研究を積み重ねているとの補足説明がある。
- ・初期集中支援事業の件数が伸びていないことに質問があり、潜在的なニーズをいかに引き出せるか、今後、地域包括センターやケアマネの協力をいただきたいと考えていると回答。

(2) 第7期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（仮）より
（福多包括支援係主任）

第7期の認知症施策ではこれまでの事業の充実、新たに地域の居場所づくりの実施の検討等にて、認知症高齢者などにやさしい地域づくりを総合的に支援する。

- ・認知症施策の推進と理解の醸成（認知症サポーター養成講座や認知症ケアパスの活用、認知症講演会、認知症フォローアップなどの普及啓発、当委員会での認知症施策の検討）
- ・認知症のケアや医療の充実（初期集中支援事業の充実、認知症連携会議継続実施）
- ・認知症の方と家族を支える地域づくり（フォローアップ講座、やすらぎ支援、家族会の充実）
- ・認知症カフェ等の認知症本人や家族の方の居場所作り（既存のカフェやサロン等で関係機関と連携し実現していけるよう検討）

(3) 「小金井市認知症安心ガイドブック」実施評価表の結果について
詳細は別紙、資料1資料2資料3参照 以下その他の追加意見

【各委員より、実施評価表に基づいて発表】

- ・薬剤師が渡す場合、渡す側が事業について知らないことも多く、今は、ガイドブックに記載されている参照冊子を紹介するという段階。そのため、参照する冊子が手元がないという市民のためにも、地域包括支援センターにつなげられるように活用できるようにしたい。
- ・配布当初の7月は、比較的早くなくなっていたが、秋ぐらいに再診者が増えてすでに持っている方が増えて、減っていかなくなった。
- ・活用は、相談時に配布することもあるが、物忘れ外来に受診する方は、すでに認知症とわかっている人がくるので説明する段階ではないことが多い。
- ・お店の方から、認知症の人はすぐわかるけれども、そこからどうしたらいいのかわからないという意見があった。
- ・訪問看護ステーション職員対象に説明をしたが、市の支援事業の中身が書いてあっても、知らないことが多い。
- ・認知症フォーラム、お元気サミット等でガイドブックを配布するとき、説明があった方がよい。
- ・やすらぎ支援について知らない人が多い。認知症の初期で精神的にも一番不安定な時期にボランティアが入ることで安心するのかという質問を受けた。認知症のことをきちんと理解した人が行くことが大事だと思う。
- ・診療室に置いたものは、持ち帰っている。数か所の歯科医院でも同じ状況。その後

のことは確認できていないのが現状である。

(質問)

初年度でガイドブックによりどのくらい相談にきたのかという質問があり、友人にもらってきたという方が1名いた他は説明のためにガイドブックを包括が使用していたのがほとんどと回答。

発表の全体を通して、当初の目的の1つの包括につなぐツールというより、現状では説明用のツールになっている、という課題が上がった。

【「小金井市 認知症安心ガイドブック」、また認知症施策について改善点等について】

- ・本人や高齢者夫婦世帯の家族が使う場合は、説明を受けないと横の帯とか縦の帯についても理解が難しい。

- ・地域包括支援センターにつなぐツール以外に実際使用して説明に使うことも目標になっており、来年度の目標をどこに置いたら良いのかという質問があり、田中委員長より、職種によって説明に使う人と、つなぐツールとして使う人がいても良いという意見あり。また、今後、新たにガイドブックを再検討するにあたって、そのような意見を記載できるように、実施評価表と別に意見を記入できる用紙をつけたらどうかという意見がだされ、事務局により新たに用紙を作成することで承認された。

- ・第7期（平成30～32年）中に、ケアパスの改正を予定している。そのため、予算計上の関係からも、平成31年9月までには、大筋の案（ページ数等）を決め、平成32年第1回の委員会で、詳細をほぼ決定して印刷することになる予定。それを踏まえて、各自来年度の実施計画表を作成し次回発表とする。

また、来年度の実施計画表と新たに作成する意見の欄を入れた書式資料は、後日事務局よりメールで送ることとなる。

次回委員会は、5月24日木曜日午後7時～（場所は後日連絡）